

広報 じんけん

編集・発行
川西市 市長公室 人権推進多文化共生課
〒666-8501 川西市中央町12-1
TEL 072-740-1150
FAX 072-740-1151

～ 出会い 気づき 発見 ～

人権擁護都市宣言・非核平和都市宣言のまち

12月4日から10日は人権週間です

※12月10日は
世界人権デー

～だれもが幸せを感じるまちをめざして～

『世界人権宣言』

※「国際連合広報センター」より

第1条

すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。

第2条

1 すべての人は、人種、皮膚の色、性、言語、宗教、政治上その他の意見、国民的若しくは社会的出身、財産、門地その他の地位又はこれに類するいかなる事由による差別をも受けることなく、この宣言に掲げるすべての権利と自由とを享有することができる。

第30条

………
(省略)



この宣言のいかなる規定も、いずれかの国、集団又は個人に対して、この宣言に掲げる権利及び自由の破壊を目的とする活動に従事し、又はそのような目的を有する行為を行う権利を認めるものと解釈してはならない。

※世界人権宣言は、基本的人権尊重の原則を定めたもので、初めて人権保障の目標や基準を国際的にうたったものです。

20世紀には、世界を巻き込んだ大戦が2度も起こり、特に第2次世界大戦中においては、特定の人種の迫害、大量虐殺など、人権侵害、人権抑圧が横行しました。このような経験から、人権問題は国際社会全体にかかわる問題であり、人権の保障が世界平和の基礎であるという考え方にもとづき1948年12月10日、国連総会で採択されました。

人権週間

- 特設人権相談の開設 -

12月4日(木) 13時～16時 市役所(庁内会議室等)

※人権擁護委員がお受けします。

予約優先

人権推進多文化共生課 ☎ 072-740-1150 まで

戦後80年

人権週間映画会

ところ みつなかホール 定員 各480名

2025年

12月6日(土)

※当日先着順、入れ替えなし。

★折り鶴平和大使の活動報告会 時間 15:10～15:25

入場
無料

劇場版 アナウンサーたちの戦争

2023年 日本 113分 日本語字幕付

上映時間 ①10:30～12:23 ②15:35～17:28



報道は“真実”ではなかった。

今の時代にこそ伝えたい、知られざるアナウンサーたちの苦悩と葛藤の実話が映画化。開戦ニュースと玉音放送の両方に関わった伝説のアナウンサー・和田信賢を森田剛が演じる。

©2023 NHK

パレードへようこそ

2014年 イギリス 121分 日本語吹き替え・字幕付

上映時間 ①13:00～15:01 ②17:40～19:41



明日に向かって歌え!

1984年のイギリス、不況と闘うウェールズの炭坑労働者に手を差し伸べたのは、ロンドンのきらびやかなLGSM(炭鉱夫支援同性愛者の会)の若者たちだった! すべては、ロンドンに住む一人の青年のシンプルなアイデアから始まった。境遇の違う人々をつないだ深い友情と感動の実話をもとにした映画。

©PATHE PRODUCTIONS LIMITED, BRITISH BROADCASTING CORPORATION AND THE BRITISH FILM INSTITUTE 2014. ALL RIGHTS RESERVED.

人権作文コンテスト 入賞作品

優秀賞
最優秀賞

『言葉は心にのこる』

加茂小学校5年 本谷 健人さん

ぼくは、ある日お姉ちゃんとケンカをしました。カッとなったお姉ちゃんは、突然「死ぬ」と言っていました。お母さんが「今何て言った？」と言いながら近くにきました。お母さんは、とても悲しい顔をして泣いていました。泣きながら、お姉ちゃんをしかっていました。

お母さんは「その言葉は、人の心を深くきずつけるし、言われた人がずっと覚えていて、その人を大切に思っている人達まで悲しませてしまうやで」と言っていました。

言われたぼくは悲しかったけど、ぼくの事を大切に思ってくれている人達まで悲しませてしまう言葉があるんだと知りました。

お母さんは、ぼくとお姉ちゃんに「あなた達がその言葉を言う人にはなつてほしくない」と話してくれました。

その言葉を聞いて「死ぬ」という言葉は、ただおこった気持ちをぶつける言葉ではなく、人の心に大きなきずを残す言葉だということを知りました。

紙にむかってひどい言葉を言いながら、えんぴつで穴をあけました。ぐしゃと丸めて、ごめんなさいとあやまりました。その紙を広げても穴はふさがりません。言われた人は、いいよって言うてくれても、そのきずは、薬や、ばんそうこうではなおせないし、一生のきずになる事をお母さんが教えてくれました。お母さんが泣いたのは、ぼくを守るためじゃなくて、お姉ちゃんがそんな軽い気持ちで使ってしまった事が悲しかったんだろつなと思いました。

人を悲しませる言葉は他にも、たくさんあります。だから、だれかに何か言うとき「この言葉を自分が言われたらどう思うかな」と考えられるようになりました。でも、まだカッとなった時に悲しませるような事を言うてるかもしれない。いやな気持ちになると思ったら、別の言葉を探します。「死ぬ」という代わりに「今は1人にして」「ちょっとおこってる」と、自分の気持ちを正直に言えば、相手をきずつけずにすみます。



言葉は目に見えないけど、心に深くのこります。悪い言葉は心を暗くします。いい言葉は人を笑顔にします。だからぼくは、人をおとすような言葉ではなく、元気にする言葉を選びたいと思います。お母さんが泣いたあの日を忘れずに、やさしい言葉を使える人になりたいです。ぼくのまわりの人達が安心して話せるようにしたいです。

優秀賞

『万博でのバリアフリー』

多田中学校2年 熊本 のどかさ

夏休みを利用して、私と母と妹の3人で、大阪・関西万博に行きました。その時感じたバリアフリーについて、書きたいと思います。母は、線維筋痛症という病気を患っており、長時間の歩行や列に並ぶのは負担になるので、杖を使用しました。どのバリアフリーから回るのが、休憩や食事場所はどこにするかなど、3人で話し合いながら決めました。計画を立てる時間も、私にとっては、初めての万博ということもあり、とてもワクワクする楽しい時間となりました。

会場に到着すると、入口で係員の方が母に気付き、優先ゲートに案内してくれました。スモーズに入場できたことにとても安心し、心の中で「こつこつ配慮があると、体が自由な人も楽しめるな。」と感じました。

会場内を回ると、多くの海外のバリアフリーは、細かい配慮が行き届いていました。妊婦さんや障がいがある人、サポートが必要な人でも安心して見学できる優先レーンがあり、誰もが快適に楽しめるよう工夫されていました。車椅子でも体験できるコーナーや、列の流れを調整する案内など、細部にわたる配慮に驚きました。母も笑顔で「こつこつ工夫があると利用しやすくていいね。」と話してくれました。

一方、日本のバリアフリーでは、まだ十分な配慮が行き届いていないと感じる場面が多くありました。優先レーンを設けていない日本バリアフリーも多く、優先レーンがあっても杖をついている母と介助者である私の2名までという人数制限がありました。

とある日本のバリアフリーを訪れた際、日本のバリアフリーの遅れについて、実感する出来事がありました。そのバリアフリーは、優先レーンで予約していたこともあり、とてもスムーズに入場できました。バリアフリー内にも優先レーンがあり、人が多くてもこれなら母も安全だなと思っていました。しかし、優先レーンは看板とテープの柵が所々にあるだけで、元気な子供が母の横を勢いよく走り抜けるなど危ない場面がありました。近くにスタッフさんの案内もなく、転倒の恐れもあるので、足早にそのバリアフリーから退出しました。

世界中から様々な人が集まる万博だからこそ、誰もが楽しめる工夫がさらに広がることを願っています。

今年度も多くの小・中学生の皆さんから、ご応募いただきました。

その中から入賞されました3作品をご紹介します。

優秀賞

『ワンワールド・ワンプラネット』

陽明小学校3年 橋本 航さん

ぼくは夏休みに、大さかで開さいされている大さか・関西万博に2回、家ぞくで行きました。はじめていった時は、たくさんの方のいろいろな形のたて物や、月の石や、人が作った細ぼつで作られた動く心ぞうを見て、すごいなと思いました。そしてミヤクミヤクといっしょに写しをとったりしてとても楽しかったです。

2回目に行った時に、お母さんに

「こを見よう。」

と言われて、ウクライナのバリアフリーを見ました。そこは「モンズ」という、いろんな国のバリアフリーが集まっているところでしたが、ウクライナは他の国より、とてもならんでいる人が多かったです。たくさんの方が気になっている国なんだと思いました。そこでは今のウクライナのえいぞうを見ました。いつ落ちてくるかわからないぼくだにヒヤヒヤしながら、毎日をすごしていたり、学校のまどガラスがぼくだんでわられて使えなくなつて、地下を走る電車のえきでべん強をしているウクライナの人たちのえいぞうでした。ぼくはしんじられませんでした。ぼくのすごしている毎日とは全然ちがったからです。

「でもこれは本当のことなんだよ。」

と、お母さんが言っていました。

そして、ほかにも今、ウクライナのようにせんそうをしているパレスチナという国のバリアフリーも見ました。

「パレスチナのガザ地区という場所が大きなひがいをうけているんだよ。」

と、お父さんが言っていました。ぼくはウクライナのバリアフリーを見ておどろいていたので、どんなバリアフリーなのかと少しこわい気持ちでした。でも、行ってみるとせんそうのことはまったく感じられませんでした。ぼくたち日本人にとって、パレスチナというガザ地区、ガザ地区というせんそうというイメージが強いので、わざとせんそうのことを思わせるんじはしてないとバリアフリーの人が言っていました。せんそうによって人や物のい動がとてむずかしくて万博が開まく初日には、てんじ物が何もとてなかつたそうです。

ぼくにとって、この夏の万博は、楽しいだけでなく、せんそうについて考えるきっかけ

になりました。今まで考えたことはなかつたけれど、今も世界ではせんそうがおきているんだと強く感じました。この大きな大屋ねリングの中では、どの国もたたかわないで、バリアフリーの人、バリアフリーに来る人もみんな楽しそうでした。本当の世界でも、どの国に住んでいる人もみんな楽しく毎日をすごせたらいいなと思いました。



いなと思いました。日本のバリアフリーでも、海外バリアフリーの取り組みから学べる人が多いと感じました。

この体験を通して、バリアフリーとは、母のような杖をついた人、車椅子の人、妊婦さん、小さな子供を連れた家族や高齢者の方、誰もが暮らしやすい生活を送るための社会全体の配慮だと考えました。誰か1人のための小さな配慮も、結局は「みんなのための優しさ」につながるのだと思いました。

万博は未来を描く場所です。だからこそ、未来の社会が「誰もが安心して楽しめる社会」であつてほしい、最新の技術や建物も大事ですが、人々を思いやる気持ちも未来を形づくる力になる、と私は思います。これから先、日本が世界に誇れるバリアフリー先進国になるために必要なことは、この人々を思いやる気持ちであり、そのために私自身もまず身近なところから思いやりの行動を心掛けていきたいです。いつか日本が「バリアフリーで誰もが生活しやすい国」として世界中の人々から記憶されることを願っています。



8月9日(土) 平和祈念式典に参列

草島

参列した、式典には、赤ちゃんから高齢者まで、いろいろな年代の人や世界各地の人が多く参列していました。そこでは代表者が、様々なスピーチをしてくださいました。会場にいますと、全員が「世界平和」を望んでいることが伝わってきました。

心に残ったことは、「核兵器のない世界の実現」という言葉です。この世界には、まだたくさんの核兵器が存在し続けていること、今、この瞬間も戦争をしている国があることを思いました。

中井

私は、式典でとても印象に残ったのは、被爆者代表の西岡洋さんの『平和に繋がるこの動きを絶対に止めてはいけない、さらに前進させよう、そして、仲間を増やしていくことが、私たちが目標とすることです。』という言葉でした。この動きというのは、日本原水爆被害者団体協議会が2024年にノーベル平和賞を受賞し評価されたことによって、世界中の人々が見ているこの機会に、核兵器廃絶をいっしょに求めていこうということだと思いました。私自身も行動し続け、平和と一緒に訴え続けてくれる仲間を増やしていこうと思いました。



平和の泉(公園内)

草島

平和の泉には、9才で被爆した少女の手書き文字が彫られていました。「…のどが乾いてたまりませんでした。水には、あぶらのようなものが一面に浮いていました。どうしても水が欲しくてとうとうあぶらの浮いたまま飲みました。一あの日のある少女の手記から」という文章です。読んでいて、どうしてもこの子に水を渡してあげたい、そう強く感じました。こんな思いをする子が、どこにもいない、平和な世界であってほしいと思いました。



戦後・被爆80年

2025(令和7)年

折り鶴平和大使のナガサキ日記



川西市では、「非核平和都市宣言」の趣旨にのっとり、市民平和推進事業として、2025年度は長崎への「折り鶴平和大使」派遣事業を実施しました。

今年度の折り鶴平和大使に公募で選ばれたのは、牧の台小学校6年の草島采和さんと川西南中学校1年の中井紗映さんです。

2人の大使は、8月9日に長崎市で開催された平和祈念式典に市民の代表として参列するとともに、市民が平和の願いを込めて折ったリンドウ色の折り鶴を平和公園内にある「折鶴の塔」に捧げました。

ここでは、2人の大使の派遣後の活動報告を掲載します。



※市民が折った約1万4千羽の折り鶴

7月28日(月)市役所にて壮行式

中井

折り鶴平和大使として出席した壮行式では、川西市民が心を込めて折った折り鶴を越田市長から受け取り、それを代表して長崎へ届け、平和を願う、という、とても重要な役目を担っていることに、身が引き締まりました。



8月8日(金)長崎到着

草島

初めに平和公園に行きました。公園内に建てられている男の人の銅像(平和祈念像)の顔は被爆者を追悼し、上に指している手は原爆のことを指し、横にしている手は世の中の平和を意味しているそうです。銅像の部分ごとにも意味があることを初めて知りました。とても多くの願いを背負っているんだな、と感じました。



折り鶴平和大使になって

草島

折り鶴平和大使として2日間、長崎に行ってわかったことは、これまで以上に戦争や原爆の恐ろしさや、平和や命の大切さを知ったこと、語り継ぐことの大切さです。

私自身も、ひいおばあちゃん、おばあちゃん、母、私へと、語り継がれたことで、ひいおばあちゃんが、原爆のきこの雲を見ていたことを知りました。色々な人が多くの人に語り継ぐことにより、80年という長い間、原爆は忘れられず、記憶され、世界を平和にする活動が行われています。

しかし、戦後80年がたった今も、なぜ、世界から核兵器がなくなるのか?疑問に思いました。どうしたら、世界から、戦争や核兵器をなくすことができるのか、これからも考え続けていきたいです。

中井

私が今回、長崎に実際に行って感じたことは、長崎の人々の「祈り」とは、まず原子爆弾の犠牲者への心からの追悼のことであり、加えて、核兵器のない世界を願うことだと思いました。

また、被爆者の方々が常に語っている『核のない世界を目指しましょう。核兵器を使ってしまうとすべてが終わってしまいます。』は、原子爆弾の悲惨さや平和の尊さを次世代に伝えようとしていると改めてわかりました。

私は折り鶴平和大使として、まず家族や身近な友人に、今回長崎で見たことや感じたことを伝えました。そして、川西市民に長崎の原爆被害や祈りについて知ってもらうために活動していきたいです。

非核平和都市宣言

世界中の人々が等しく平和な暮らしを営むことは、人類共通の願いです。

それにもかかわらず、地球上の全生命を滅ぼしてもなお余ほどの核兵器が蓄積され、世界の平和に深刻な脅威を与えています。

わが国は世界で最初の核被爆国として、核兵器と戦争の恐ろしさを全世界に訴え、その惨禍を絶対に繰り返させてはなりません。

私たちは祖先から受け継いできた猪名川の清流、豊かな緑、そして人類共通の財産である青く美しい地球を永遠に守り続けていくためにも、核兵器をつくらず・持たず・持ち込ませずの「非核三原則」を遵守するとともに、恐るべき核兵器の廃絶を願い、人と人が憎しみあい傷つけあうことのない世界の創造を求めて、ここに市民の総意のもと、川西市を「非核平和都市」とすることを宣言します。

平成元年(1989年)7月14日 川西市

折り鶴を捧ぐ

中井

折り鶴を奉納する場所には、数えきれないほどの折り鶴がありました。幼稚園など小さい子から、原子爆弾を経験した高齢者まで、日本中、いえ世界中から折り鶴が捧げられていました。そして私は、千羽鶴に込められた思いを川西市から伝えていこうと思いました。

折鶴の塔に捧ぐ2人▶



長崎原爆資料館などを見学

草島

原爆資料館では、特に印象的だったのは、4年生の男の子の「お母さんを焼いた運動場」という文章です。被爆して亡くなったお母さんを火葬した場所で、黒い炭のかけらを見つけた、という話でした。そこからは、死んでしまったお母さんに会いたいという気持ちがとても伝わってきました。自分の通っている学校で、たくさんの人が亡くなり、焼かれる、おかあさんともお別れをする、ということ想像するだけで、胸が苦しくなり言葉にならない思いになりました。



中井

資料館の展示物を見つめて3時間。広島資料館で見たものと同じくらい残酷で悲惨なものがありました。そのうちのひとつが「手の骨とガラス」です。

これは、人間の手の骨とくっついたガラスの塊が、爆心地付近で見つかったものです。それを見ていると、その人がなぜこんな目にあって亡くならなければならなかったのかと悲しみがこみ上げてきました。原子爆弾の悲惨さを知るとともに、被爆者や遺族の気持ちに思いを巡らそうと思いました。



2025年は6人の市民の方から寄稿いただきました。
そのうち2編をご紹介します。

私は戦争体験者

村山 優子さん 91歳

私の戦争体験は台湾でした。引き揚げ者です。日本本土の戦況と違っていたかもしれませんが、戦争の恐ろしさは同じだと思います。

日本がハワイを攻撃したのを皮切りに、第2次世界大戦が始まりました。その時、私は台湾の国民学校の1年生でした（父母は父の仕事の関係で台湾へ渡り、私はそこで生まれました）。初めのうちは「勝った勝った」と提灯行列をして喜んでいました。その後の状況の悪化はすつと知らされませんでした。家の近くに特攻隊の飛行場※があり、近くの日本人の家には2、3人の予科練生が下宿していました。私の家にも2人が出入りしていました。多分、17、18の青年だったと思います。「お兄ちゃん お兄ちゃん」と呼んで遊んで貰いました。滞在期間は覚えていませんが、その後、戦死したと思います。

鹿児島県の知覧町には同じ年代の人の遺書が展示されています。遺書を書く時はどんな気持ちだったのか、辛いです。

残っている者は、国（台湾）を守らなければなりません。それを「銃後の守り」と言いました。夜、敵の飛行機に見つからないように電球に黒い布を被せたり、窓のガラスが割れないように紙のテープを点に貼ったり、火を消す訓練は小さなバケツに水を入れて次々に消すバケツリレーでした。他にもチャーチル英国、ルーズベルト（米国）のわら人形をめぐって竹槍で突くという訓練もさせられました。このような粗末なものが国の方針だったのです。滑稽としか言いようがありません。

防空座布には、小さい布に住所、氏名、親の名前、血液型を書いて縫いつけて肌身離さず持っていました。いつ攻められるかわからないので、同じ洋服を着て身構えていました。父は台湾で赤紙召集、千人針のタオルを持って出征しました。

戦争が熾烈になり、私たちは（台湾の）山奥へ疎開（逃げる）しなければならなくなりました。疎開する時も突然山間から敵機が現れるというとても恐い目にありました。

延々と4年つづいた戦争は昭和20年8月15日で終わりました。それからは日本人は殺されると言う噂が飛び交い、慌てて翌昭和21年3月末に着の身着のままで日本に戻りました。

折角苦勞して日本に帰ってきたのに、帰ってきてすぐに父は病気になる、食べるものもなく薬もなく、肺病で42歳で亡くなりました。その2年後には「パス」と「ストレプトマイシン」という肺の薬ができ、今では結核で亡くなる人は殆どいないようです。

残された3人の子供（6年生、3年生、2才）は、みんな母が育ててくれました。すごい苦勞だったと思います。いくら感謝しても足りません。書き進めていると母をしきりに想い出します。

25年前、夫とハワイに旅行に行きました。（夫は20年前に亡くなりました）その時、真珠湾にも行きましたが、この時はほんとうに日本人として恥ずかしく、済まない気持ちでいっぱいになりました。

世界のあちこちで争っている国があります。その国の指導者が考えを改めて世界が平和になりますように祈っています。

※台湾にも特攻隊の出撃基地がいくつか存在しました。特攻作戦は主に南九州の基地から行われましたが、台湾にも宜蘭（ギラン）、花蓮（フアリエン）、澎湖諸島の望安などに旧日本軍の飛行場跡や関連施設が残っており、特攻隊員たちの出撃や壮行の場となりました。



戦争体験談

斉藤 美代子さん 91歳

私は、母の実家がある三田の相野（それまでは大阪の十三に住んでいました）に3つ年下の弟と疎開していました。そこで、小学6年生の時に終戦になりました。その直前までは、爆弾の恐ろしさの続く日々でした。

終戦と云う言葉がラジオから流れた時、日本が敗けたと

云う悲しみより、家族が電氣をつけて笑えると思うとほっとしました。でも母は泣いていました。戦争は人の心をむしばみ、意味のないことだと思い、大人になったらこの痛みを生かして戦争の無い平和な世界に力を注いでいこうと決めました。

疎開先での爆弾、B29、防空壕、防空頭布の思い出は今も頭から抜けません。

また、兄が出征する時の悲しみ、みかん箱の上に立ち、近所の人々に見送られる姿を見て、妹の私としては死を覚悟をして見送りました。それから暫くして、伊丹にある陸軍の千僧兵営に配属された兄に面会に行くと、上司の命令に従い、靴ずれのため足をひきずり、泣きながら歩いている兄がいました。その後、兄は目が悪くなり兵隊として役に立たない人間となり除隊され哀れな姿で帰ってきました。

「ああ、よかったね」と私は兄を抱きしめました。近所の知人は特攻隊で飛行機にのろうとしたが、飛行機が故障して助かったと聞きました。お国のために命を捧げないと駄目な人間と云われていましたが、命の尊さが私には国を大切にすることだと信じていました。命あってこそ。

戦後、川西の花屋敷に住居を構えることになりました。近所の大きな家にはアメリカ進駐軍が占領して住んでいました。そこで、よくバナナを食べているアメリカ人を見かけました。私も食べたいと思いました。でもなぜかバナナは家にはありませんでした。

その後も兄は母の世話をよくしてくれ、私は安心して生活出来ました。兄の息子たちも立派に成人し世の中で活躍しています。現在、私は川西で、さやかコーラスに参加させてもらっています。やなせたかしさん作詞の悲しい、さみしい曲をうたっています。戦地へ行き、命を絶たれた方、残された人々の悲しみが伝わってきます。戦争の悲しみは、現在も続いています。心の傷跡は消えることはありません。この悲しみをパワーに変えて、平和な世界でありたいと祈り続けています。

卒寿を越えた今も「長崎の鐘」藤山郎さんのうたわれた曲を下手ですがピアノで弾きながら、平和の鳩を飛ばしています。

誰もが「自分らしく」生きられる社会へ
～ SOGI の多様性を考える～

2023年6月「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」（理解増進法）が施行されました。この法律が目指すSOGI（性的指向及びジェンダーアイデンティティ）の多様性が尊重される社会について考えましょう。

SOGIってなに？

性的指向を示す「Sexual Orientation」と性自認を示す「Gender Identity」の頭文字をとった略称です。SOGIは身体的な性と共に人間の性を構成する要素であり、誰もが持っているものです。

SOGIを表す主な言葉の一般的な意味合い

SOに関する言葉 恋愛感情又は性的感情の対象となる性別についての指向	L	レズビアン	同性に惹かれる女性
	G	ゲイ	同性に惹かれる男性
	B	バイセクシュアル	両性に惹かれる人
	A	アセクシュアル	どのような性にも惹かれない人
GIに関する言葉 自己の属する性別についての認識に関するその同一性の有無又は程度に係る意識	H	ヘテロセクシュアル	異性に惹かれる人
	T	トランスジェンダー	出生時に判断された性別とジェンダーアイデンティティが一致しない人
	C	シスジェンダー	出生時に判断された性別とジェンダーアイデンティティが一致している人
SOGIの両方	Q	クエスチョニング	性のあり方が定まっていな人または定めていない人



※SOGIのあり方は多様であり、必ずしも表中の分類に限られるものではありません。また、この表では一般的な意味合いを紹介しています。異なる説明の仕方がなされることもあります。LGBTQという言葉では一部分しか表せないため、SOGIで性のあり方をとらえることが多くなってきました。

SOGIの多様性が尊重される社会ってどういうこと？

性的マイノリティの方は外見で判断がつかないことが多く、「身近にいない」「会ったことがない」と思っている方も多いでしょう。しかし、さまざまな調査から人口の約5～8%は性的マイノリティであると推定されています。日本ではAB型が約10%、左利きの人も約10%とされており、ほぼ同じくらい性的マイノリティの方がいるのです。

当事者の方々は社会の無理解や偏見などからくる、いじめや差別を恐れ、家族や友人、知人にも伝えることができず、周りもその存在に気づきにくいことから、「いない」ものとされ続けているのです。

理解増進法は、そうした状況を踏まえ、SOGIは誰もが持っているもので、そのあり方は人それぞれで異なり多様であることを、私たち一人ひとりが理解し、お互いのSOGIを自然に受け入れ、相互に等しくかけがえのない個人として尊重し合える共生社会の実現を目指しています。



私たちができることは？

正しい知識を身につけ、
偏見や思い込みをなくそう！

SOGIに関する十分な知識がないと、偏見や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を持ってしまうことがあります。

カミングアウトを受けたら…

性の多様性について、未だ社会の理解が進んでいない中で、性的マイノリティの人がカミングアウト（打ち明ける）することは勇気があることです。もしあなたがカミングアウトを受けたら、あなたを信頼して打ち明けてくれたことを十分に考えましょう。

アウトティングは絶対にしない！

本人の同意なく、その人のSOGIに関する情報を第三者に伝えることをアウトティング（暴露）といいます。アウトティングは重大な人権侵害です。絶対にしないよう十分に注意しましょう。

カミングアウトを強要しない！

カミングアウトをするか・しないかは本人が、自分の意思で決めることで、誰に対しても、カミングアウトを強要することがあってはなりません。



アライ(Ally)とは、正しくはストレートアライ(Straight Ally)と言います。自分は性的マイノリティの当事者ではないけれど、性的マイノリティの人たちの活動を理解し、支援する人たちのことを言います。

第16回

令和7年度 人権写真 コンテスト in かわにし

フォト

入賞作品介绍

テーマ「多文化共生」

特別賞



大事な命を「いただきます」

中西 友里愛 さん(新田)

初めて魚を捕まえ、串にも刺せていました。
頭から尻尾まで残さずすべて食べていました！

特別賞



「少しの時間」 田村 美貴 さん(久代)

少しだけでも会いたい会わせたい。
お願いして会いに行きました。
この日は体調も良く、赤ちゃんも腕の中で寝ていました。

Tea ceremony (ティー セレモニー)

芝田 駿斗さん・フレイザー マクフェイルさん(石道・豪州)

9月下旬にオーストラリアから地元の高校に交換留学生23名が来て、
日本文化学習会として高校の作法室で茶道(裏千家)体験をしました。

優秀賞

※今年のテーマは「多文化共生」でしたが、作品として評価されたものを「特別賞」としました。

人権推進多文化共生課では、さまざまな人権や平和に関する学習教材 (DVD・書籍・紙芝居) を貸し出しています。
学習・研修会などにご活用ください。

【一例】DVD: 「バースデイ」「折り梅」

紙芝居「まもるくん 十歳の戦争 吹田」(平和)

※市総合センターでも貸し出しています。



※個人利用も可能です

詳しくは
こちら▶



★12月10日～16日は、北朝鮮人権侵害問題啓発週間です。

～北朝鮮当局による人権侵害問題 (拉致問題) に対する認識を深めよう～

★啓発コーナー: 川西市役所・市民ギャラリー 2025年12月4日(木)～15日(月)
: 川西市総合センター 2025年12月8日(月)～12日(金)



クイズ?

次の空欄 (○) の中に適当な文字などを入れてください。

- 今年(2025年)度の「折り鶴平和大使」は○○市で開催された平和祈念式典に市民の代表として参加しました。
- 本年、令和7(2025)年は、日本の「戦後・被爆○○年」です。
- 今年度の人権写真(フォト)のテーマは、「○○○共生」です。

応募方法 ハガキに①クイズの答え、②住所、③名前、④年齢、⑤電話番号、⑥今回の「広報じんけん」で興味のあった記事と感想を書き、下記のあて先まで

あて先 〒666-8501 川西市 市長公室 人権推進多文化共生課「クイズ」係 しめ切り 令和7年12月15日(月)消印有効

※クイズ正解者には、図書カード(1,000円分)を5人に差しあげます。(正解者多数の場合は抽選。図書カードの発送をもって発表にさせていただきます。)